

主体的・対話的で深い学び(書くこと)

★「主体的・対話的で深い学び」をする子ども像は、「書くことを厭わない子」を育てることです。書くことには、<知識・技能><思考力・判断力・表現力>のすべてが関わるからです。しかも、うわべだけ、理解をしたつもり、伝えてつもりという曖昧さがある余地がなく、能力がそのまま表れるからです。

★書くことは、国語の学力では、適切に書く、正しく書くが目標です。ひとりひとりの子の完成した力を前提とする。書く機会を増やし、「適切・正しく」を意識させると、確実に伸びるのが「書くこと」です。その上にのせるそのために、子どもに努力してほしいことは「話をするとき、文章の事柄や語彙を使うこと」です。これは、<知識技能>という力を育てるうえで大事になります。ペア・グループ・全体的話し合いではここに着目してほしいのです。

★学習形態は学習指導要領に示している3段階+1というものをの実践です。

1段階は、全文通読や感想を書く、言葉を調べるというようにお使いいます。少し踏み込んで、文章の大まかな理解ができるという所まで進めるのです。段落ごとに読んで、始めて内容が分かったというのではなく、説明文であれば、最初の段階で、要旨や意図を理解し、2の段階で内容を検討するという、本来の、文を読む面白さを授業として仕組みます。

★語彙指導では「この文から」「この言葉から」「理由はこの文です」「根拠となる文章は」「このように考えたのは第3段落の」など、考えの根拠に文や語がよりどころになるのです。授業の途中で、まとめ、板書に整理をする時には、落ち着いて考える時間を設ける等、節々の学習活動の目的をはっきりさせます。